

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373201161
法人名	社会福祉法人 緑新会
事業所名	グループホーム しんわ
訪問調査日	平成 21 年 1 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4373201161		
法人名	社会福祉法人緑新会		
事業所名	グループホームしんわ		
所在地 (電話番号)	天草市新和町小宮地763-2	0969-46-2544	
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年1月20日		

【情報提供票より】(20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.9 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造セメント瓦葺平屋建て造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 91.3 歳	最低 86 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新和病院 岡田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上、社協・病院・保育所等が立ち並ぶ福祉ゾーンの一角。「グループホームしんわ」は、母体の特別養護老人ホームに併設して開設し、6年を経過したところである。特養も小規模であるため、双方の職員が、双方の利用者の顔・双方の施設の状況を把握しており、しっかりとした協力体制ができています。ホーム・入居者が大好きな職員によって、「ゆっくり いっしょに 楽しく」の理念そのままに、一人ひとりのペース・意向に沿ったケアが提供されており、穏やかで楽しい日常を過ごしていることが窺える。協力医療機関が福祉ゾーン内にあり、利用者・家族の安心を得ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ターミナルケアの研修については、「看取り介護指針」に基づき、方針・対応方法等の周知徹底を行っている。トイレの臭気については、使用後の確認を行い、消臭スプレーの使用や定期的な換気、食後1時間後の清掃等の対策を実施。また、一般職員の同業者との交流については、今年度から天草圏域GH連絡協議会においてもその機会が増えている。なお、家族からの意見の反映について、意見箱への投函用紙をアンケート方式の様式に変えて対応したが、やはり意見は出にくく、改めての対応策を検討中。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目は、それぞれに自己のケアを振り返り、全員で打ち合わせをして管理者が取りまとめている。外部評価は、第三者の視点で新たな気づきを確認できる機会と捉え、より良いケアにつなげている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者状況・自己評価や外部評価結果・行事予定等の報告や意見交換等が行われている。委員からの、入居者とふれあえる機会を持ちたいとの提案から、食事会を行うなど、積極的な関わりが持たれている。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会は多く、その際は健康状態や日常の様子等細かに伝えている。また、毎月、ホームの様子と写真をふんだんに盛り込んだGH便りとともに、入居者それぞれの近況を綴った手書きの手紙を家族に送付し、喜ばれている。また、状況の変化等あった場合は電話連絡を行う等、不安の除去に努めている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者の知人の方など、隣接病院に来たときはホームに立ち寄ってくれたり、出身地区の老人会から面会があるなど、地域との繋がりが保たれている。特養との共同行事である夏祭り・運動会等には、地域住民の参加も多く、保育園との交流・中学校のワークキャンプや体験学習の受け入れも行い、地域との連携が工夫されている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり いっしょに 楽しく」とわかりやすい理念を掲げ、家族・地域との繋がりを大切にしながら、利用者が安心して、一人ひとりのペースで楽しく暮らしていけるような内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めに、管理者は理念・運営方針を記載した事業計画書を職員に配付・説明。また、GHの会議において、サービスが理念に基づいたものとなっているか定期的に確認しあい、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	GHが小高い丘の上にあり、近くの方が気軽に立ち寄ってくれるという環境ではないが、隣接の病院に来たときは寄ったり、出身老人会の方が面会に訪れたりしている。特養新和苑との共同行事である夏祭り・運動会等には、多くの地域の方々の参加を得ており、ホームからも地域のお祭りに出かけたり、保育園との交流や中学校の体験学習・ワークキャンプの受け入れを行う等、交流への努力が見られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目について、それぞれが見直しを行い、全体で打ち合わせをして管理者がとりまとめている。外部評価については、第三者の視点による新たな気づきや改善項目を明確にするためのよい機会ととらえている。前回の課題については計画的に改善に取り組み、サービス向上につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表・家族代表・理学療法士・地域振興会役員・市高齢者支援課担当者等を委員として2カ月に1回開催。利用者状況・自己評価や外部評価結果・行事予定等の報告、意見交換等が行われている。委員からの、利用者との交流を持ちたいとの提案により、食事を開催するなど、積極的な関わりが持たれている。	○	外部委員全員が出席できる日程の調整が困難な状況であるが、よりよいホームづくりのため、出来るだけ多くの参加を得て、多様な意見を聞きたいところである。今後とも引き続き働きかけをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは疑問点について相談する等の連携ができています。年1回、市主催の介護者教室を新和苑が受託・実施しており、その際GHからも講師を派遣するなど地域に貢献している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会は、多い方で週3日程、少ない方も月1回程度あり、その際は入居者の健康状態・取り組んだこと・思いなど伝えている。毎月、GHの様子と写真をふんだんに盛り込んだGH便りと、入居者それぞれの近況を綴った手書きの手紙を家族に送り、喜ばれている。また、必要に応じ、電話での連絡を行い、状況に応じた報告が見られた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族から意見・要望等聞くようにしているが、特別な注文は聞かれない。玄関に意見箱を置き、書きやすいようにアンケート方式の様式にするなどの工夫も行っている。	○	最近では、参加者が少ないこともあり、家族説明会を実施していないとのこと。必要に応じ、日程を工夫して、実施されるよう期待する。また、家族だけでの話し合いができる家族会の設置や利用者(家族)アンケートの実施等による意見や要望把握の検討も良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が別棟の職員室で職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特養のケア・GHのケアの双方の学びが必要との施設長の方針から、定期的に小規模の異動は行われている。その際は1カ月程前に内示があり、GHに来る職員は頻繁にGHに顔を出して顔馴染みになったり、GHの考え方・方向性を把握する等の準備を行っている。開設時からの職員が4名おり、異動による入居者への影響はほとんど見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修会やGH独自の研修会が年13~14回実施されている。外部研修にも職員は積極的に参加し、職員会議での報告会で研修成果を共有している。尚、人事考課制度を導入し、職員面接等で目標や達成状況・勤務状況等を確認し、半年ごとに評価し、モチベーション維持に努めている。GH全体に、目標を立てて仕事や資格取得に取り組む環境が作られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草圏域GH連絡協議会が3カ月に1回開催されており、情報交換・意見交換を行っている。今年度は一般職員が交流する機会も増えており、より充実した活動が見られた。また、天草圏域の4つのGHと相互に訪問し、長所・短所等の意見をまとめて3月に発表するという相互研修を実施中であり、よりよいGHづくりを目指した熱心な取り組みが実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にできる限り本人・家族に見学に来てもらい、GHの説明や雰囲気を見てもらったり、GHからも家庭や現在入所している施設に出かけて説明を行っている。入居者は母体法人のショート利用者が大半であるため、ショート担当者との連携を密にし、情報を得ている。多くの利用者は1週間くらいで落ち着かれるが、入居後は少しでも早く馴染めるよう、他の入居者や職員とのコミュニケーション支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の「ゆっくり いっしょに 楽しく」をモットーに、昔の風習・田舎料理の作り方・野菜等を植える時期・畑の地下作り等、入居者の得意なことは教えてもらいながら、一緒に活動し、共に支え合う暮らしが展開されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自に工夫した様式で、本人の生活歴・身体状況・趣味嗜好・希望等、詳細に把握し記録化されている。また、日々の会話や活動の中で、新たな情報や変化等を蓄積しており、アセスメントは毎年更新し、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	把握した情報を基に、本人・家族の意向を反映しながら、ケアプランを作成し同意を得ている。また、個人ごとにケアにあたっての留意点を記したサービス内容確認書を作成し、個別ケアの質の向上に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは半年ごとに更新し、同意を得ている。また、状態変化が生じた場合はすぐに家族に連絡して意見・要望を聞き、プラン及びサービス内容確認書の変更を行っており、常に現状に即したプランとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩や買い物・ドライブ等外出の希望に応じ、できるだけ個別に対応するよう努めている。帰宅願望がある利用者には、自宅や田んぼを見に同行する等、落ち着いてもらうよう支援している。また、理美容では特養の訪問理美容を利用する他、家族が馴染みの店へ同伴されたり、職員が散髪することもあり、柔軟な支援が見られた。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は、もともと隣接の新和病院がかかりつけ医であり、医師は入居者の状態を十分把握しており、入居者・家族の信頼と安心に繋がっている。毎月1回以上往診を受けており、緊急時も迅速な対応が可能になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り介護指針」を作成し、看取りについての考え方、視点、ケアの方法など取りまとめ、定期的な職員研修を行って方針を共有し、ターミナルケアへの体制を整えている。終末期の意思確認も行っているが、現段階ではターミナルケアの取り組み例はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については、トイレに目隠しを付けて、間違ってもドアを開けても見えないように工夫されている。トイレ誘導時の声かけは耳元で小さな声で行うよう、また、日常の声かけは、敬意を込め、やさしいニュアンスとなるよう留意した対応だった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から、メニュー決めや日程決めなどの場面において、「～しますよ」ではなく、「～しますけどどうですか」「どちらにしますか」「何をしましょうか」といった声かけで、自分で決めるということを意識してもらうよう工夫されている。個別のペース・要望にできるだけ対応し、支援している。当日も、職員とおしゃべりをしたり、手拍子をたたいて歌ったり、読み物を読んだり、それぞれのペースでゆったり楽しむ姿が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食のメニューは、何を食べたいかを皆で考えて決め、買い物に出かけている。食事の準備は、野菜の皮を剥いたり、切ったり、味付け等を一緒に行っている。食事は三つのテーブルに分かれ、それぞれ職員がついて談笑しながら同じものを食べる楽しい雰囲気が作られていた。食後は二人の入居者が、自分の役割として三つのテーブルを半分ずつ拭き、持てる力を発揮できる支援が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に昼間行っているが、希望に応じ夜も対応、毎日でも可能である。入浴が楽しいものになるよう、一対一でゆっくり入ってもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝い・台拭き・掃除・洗濯物たたみ・猫の世話など、好きなこと・できることを声掛けして役割を担ってもらっている。また、ドライブ・散歩等の外出や歌を歌うなど、気晴らしの支援をしている。その他、プランターに植えたプロッコリーやホーム内のあちこちに置いてある植物の成長を共に楽しむ等、ホーム内での張り合いも作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の希望に応じ、日常的に散歩・買い物・ドライブ等出かけている他、温泉・花見・魚釣りなどに出かけ楽しんでいる。全員参加の機会は減ってきているが、年1～2回は工夫して、全員参加できるよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけておらず、玄関のセンサーで出入りを把握しており、職員が出入りする場合は必ず声かけを行っている。入居者の所在を常に把握し、見守ることで、危険防止に努めている。リビングに居ても玄関が見え、来客の声もよく通り、玄関の様子を確認することができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特養と合同の防災訓練を年2回、消防署からも協力を得、入居者も参加して実施している。また、GH独自に毎月、消火器等の器具取り扱いや、避難誘導・通報訓練を実施している。緊急時には、ボタン一つで特養から職員が駆け付けるようになっており、協力体制ができている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜の摂取は、添え物や汁物の具などで調整し、栄養バランスをとっている。食事の摂取量をチェックし、不足する利用者には高カロリージュース等を提供して、栄養不足にならないよう留意している。水分量は1日1,000ccを目安に、食事・おやつ時・寝る前等に補給している。必要に応じ、刻み食・おかゆ等の提供が工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花壇の花、建物内も玄関や廊下に大小の植物がおかれ、潤いを与えてくれる。また、中庭を囲む廊下の窓辺には、小さなかわいい置物が並べられ、ついで、顔がほころぶような温かみを感じさせる。食堂兼リビングは、天井が高く、明るく開放的。また、廊下の一角にある談話コーナーは、読み物を読む人、談笑する人等で賑わっており、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札が掛けられ、我が家を思わせる雰囲気がある。室内は奇麗に整頓され、使い慣れた家具・テレビ・小物など持ち込まれている。壁には家族の写真や思い出の写真・誕生日プレゼントの飾りなど、所狭しと飾られ、居心地の良い部屋づくりがなされていた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームしんわ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	天草市新和町小宮地763の2
記入者名 (管理者)	船元 貴子
記入日	平成 20 年 12 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から掲げている、「ゆっくり、いっしょに、楽しく」をモットーに、家庭的で安心して暮らしていける環境作りと、笑顔で寄りそうケアを提供するように努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度始めに事業計画を設定、運営方針・運営理念を記載した事業計画書を各職員に配布し、意義を理解してもらおうと共に、各種会議等にて理念・方針に基づいたサービスを提供するように話し、定期的にケア提供状況を確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域に対しては、年2回の広報やGH便りを発行し、GHの理念や役割を示すとともに、御家族に対しても毎月、GH便りや近況報告書等を発行するなどの広報活動に取り組んでいる。今年4月にホームページも開設され、より多くの人に情報公開を行なっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のスーパーなどでの買い物や行事参加、外出など、笑顔での挨拶を心がけ、交流を深める努力をしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特養新和苑との共同行事(夏祭り・敬老会・運動会・クリスマス会など)への参加を地域へ呼びかけ、独自の行事を通じて地域交流を図るとともに、地域行事(各種お祭り、運動会、文化展など)へ参加し、日常的には野外活動、外出、買い物を通じて交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる	介護者教室等の実施について、行政などにも調整を依頼 しており、積極的に協力するようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでい る	第三者の視点で、自施設を見ていただくことにより、新たな気づき あったり、改善しなければならないところが明確になるため、寄りよ いサービス提供につながる第一歩と考えている。職員も外部評価の 意義を十分に理解している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	事業計画・実績の報告、自己評価・外部評価報告、活動実 績、サービス提供実績の報告、ヒヤリはっと事例報告などを 行なった。会議内容は会議録を作成し、グループホーム玄 関にて掲示している。	○	行政から検討が必要な項目を示されたので、今後は参考 にして会議を進めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に組み 組んでいる	運営基準の確認や各種加算体制状況の報告、サービス提 供の報告を通じて、担当者との連携を図っている。GH指定 更新などでも連絡を取り合うことができ、関係強化につなが った。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	研修会参加や資料等を活用し、知識を得ている。今後、施 設内研修等で周知徹底を図っていききたい。必要と思われる 方への支援は行なうようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、法人で行なう施設内研修を何度も実 施している。施設外研修にも積極的に参加し、職員会議にて 報告させている。この他にも、身体拘束防止委員会の活動 の中で、虐待についても取り扱い、職員間で検討させている。 職員へのストレス対策についても、スポーツの振興や趣味の 活用、話を聞く場を設けるなどの対策を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申請を受け付けた段階で、重要事項の説明を行ない、グループホームにおけるサービス内容や入退所の条件などを示し、質問などを受け付けている。入所契約を交わす前にも十分な説明を行なうようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に職員は利用者様の声に耳を傾けて、様々な意見や要望を受け入れるようにしている。堅苦しい雰囲気ではなく、日常会話の中で自然に受け止めるようにしている。また、第三者委員会への苦情受け付けも行なっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者様の状態や、取り組まれたこと、思いなどを伝えるようにしている。また、全利用者様の御家族に向けて、月1回、GH便り・近況報告・預かり金収支報告書により、状況報告を行っている。利用者様の状況変化などが見られた場合も必ず電話連絡を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見は面会時に汲み取る努力を行なっている。利用者様の状況報告ばかりでなく、共通の話題や日常会話を通して馴染みの関係を構築し、不満・苦情を引き出しやすいようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は職員の意見をよく聞くようにし、運営方針に反映させている。また、月1回のグループホーム会議にて、様々な意見を出し合い、管理者・運営者に報告している。重要事項については運営者を含め、全体会議を行なっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	介護従事者7名、看護師1名体制で、サービス提供を行っている。日々のサービス提供については、開設からこれまで、何度か業務時間や業務の見直しを行ない、利用者様のニーズや要望に応えられるよう配慮している。緊急的な受診、定期健診などの健康面での対応や、急な休日取得などについても柔軟に対応することができている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等については、適材適所の方針で対応している。GHに異動させる場合は、まずGHの環境に適応できるか、認知症ケアに理解があるかなどを判断して異動を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成については、人事考課を通じて仕事の成果を正 当に評価し、フィードバックを行なうことで、職員のモチベー ションの維持に努めている。研修については、GH内研修を 始め、法人内研修を定期的実施し、外部研修について も、できるだけ受講できるように配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者 と交流する機会を持ち、ネットワークづ くりや勉強会、相互訪問等の活動を通じ て、サービスの質を向上させていく取り 組みをしている	天草圏域GH連絡協議会に加入し、定期的に研修会へ参 加している。今では馴染みの関係が構築でき、活発な意見 交換や情報交換を行なうことができている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽 減するための工夫や環境づくりに取り組 んでいる	職員の悩みを聞き入れやすいよう、運営者・管理者自身が 職員へ気軽に話しかけ、業務以外のことを話題に出すなどし て親睦を深めるようにしている。職員個人が趣味を持ち、適 度に楽しみながら気分転換を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、各自が向上心 を持って働けるように努めている	人事考課制度を導入し、半年ごとに評価を行なっている。 職員個人の業務実績や勤務状況については、面接時に確 認し評価を行なった上でフィードバックを行なっている。長所 を伸ばすように働きかけることで、向上心をもってもらうように 心がけている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っ ていること、不安なこと、求めているこ 等を本人自身からよく聴く機会をつ くり、受けとめる努力をしている	入所時のアセスメントや、日常会話の中で訴えや要望を聞 くようにし、常日頃から利用者様が訴えや要望を伝えやすい ような環境作りに努めている。約半年～1年ごとのアセスメント 時にも、軽い形式の面接という形で要望を聞き、サービスに 反映するよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困 っていること、不安なこと、求めている こと等をよく聴く機会をつくり、受けと める努力をしている	職員皆が明るい挨拶を心がけ、会話を多く持つように心が けている。なじみの関係から信頼関係を構築し、要望を多く 引き出していき、適切に対応するように心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常を通して利用者様と接する中で、様々な視点から物事をとらえ、必要とされている支援を見出すように努めている。様々な状況に合わせて、他のサービス利用も選択肢の一つとして提示するようにしているが、退所を促しているように受け取られないように注意をはらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に施設の説明や見学を促し、納得された上で入所していただくようにしている。また、事前調査や情報交換を通して、利用者様や御家族との交流を図るように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり、いっしょに、楽しく」をモットーに、家庭的な雰囲気作りやゆっくりとした時間の流れとなるように努め、笑顔で寄り添うケアを大事にしている。声かけする場合は、方言を多用せず、言葉のニュアンスに気をつけ、慣れ慣れしくならぬように気をつけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様や御家族のニーズにひとつひとつ応えていき、信頼を得ていく中で共通の話題などを見つけて、馴染みの関係をつくり、気軽に声をかけられるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時のアセスメントや日々の会話の中で情報を分析し、利用者様と御家族の関係をよく理解して、個々の状況に合わせた働きかけを行うようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域からの認知度も上がってきており、地域の方々や自宅近くの方々もよく面会に来ていただけるようになってきた。また、出身地で開催される行事等への参加(利用者様・御家族の承諾を得て)や、こちらで行なう行事への参加呼びかけなどを通して、関係の継続支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様個人の性格や好み・状態に応じて、関わり支援を行っている。また、利用者様同士の関係作りにおいても、誤解のないように、見守りや声かけ、フォローを行ない、関係を保つ支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了する場合であっても、必要に応じて、老健施設や病院を斡旋し、行き先がなくなるようなケースにならないよう支援を行っている。また、こちらに空きがある場合は、優先的に入所できるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行なうときには、利用者様の要望やニーズを最優先して聞き取りや調査を行なっている。利用者様に日々の生活を送っていただく中で、利用者様の立場に立って物事を考え、無理なく希望や要望を引き出し、サービスに反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のこれまでの生活歴や生活環境の把握については、利用者様・御家族・ケアマネージャー・主治医・過去に利用されたサービス提供機関などから情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録や各種チェック表などを活用し、定期的にアセスメントを実施し、総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	状態変化があった場合、ケース会議を通して、課題提起や対応策を検討している。ケアプラン作成前に、面会や電話連絡などで、御家族からの意見や意向を取り入れて、プランの作成を行なっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があれば、必ず御家族に電話連絡を行い現状報告を行なっている。その際に意見や要望を取り入れ、状態に応じた計画を策定する。その際は、状態一覧表(状態に対する対応策やケア内容を表示)についても作成し、すばやい対応を図れるように努めている。	○	ケアプラン作成の見直しを行ない、より細かなケア提供に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録(利用者様9人分の1日の記録)の様式を変更し、ケアプランの要点をまとめたものを記載し、ケアプランに基づいた記録になるように配慮している。日々の記録は個別記録に転記し、個人の情報をまとめている。介護計画の見直しの際はこれらの記録をもとに見直しを行なっている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様が特養新和苑に入所申請されている場合、重度化などで状況変化がある場合には、特養新和苑への入所支援などを行なっている。日頃から、様々なニーズに対応できるよう、各サービス機関との連携や、法人内でのセクション間の情報共有などを積極的に行なっている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各種活動や行事などを通じて、各機関との協働を行なうようにしている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社会資源の活用のため、情報収集を行なっている。他のサービスを利用したいとの要望があれば、適切に支援していく。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者様や御家族の意向があれば権利擁護やケアマネジメントについて、地域包括支援センターに相談するようになっている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関(新和病院・岡田歯科医院他)との連携を密に行い、利用者様全員が主治医から月1回以上往診を受けるとともに、状態変化があれば受診を行なっている。主治医は入居者の状態をよく把握されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>ターミナルケアを提供する際には、御本人の安楽、御家族の要望、サービス実施内容、緊急時の対応方法などを詳しく協議した上で実施する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけについては、定期的に状況把握・指導を行なっている。基本的には方言は多用せず、敬意を込めた声かけとなるように努めている。記録に関しても同様に、尊厳を重視した記録内容を心がけている。個人情報全般の取り扱いについては、利用者様や御家族の方針をもとに取り扱いを決定している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様個人の趣味や性格に応じて、必要な情報提供を行ない、自己決定の働きかけや自己選択していただけるような声かけを行なうようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや要望を尊重し、メニュー決めや日程決めでは、必ず利用者様の要望を聞くようにしている。日程決めでは朝食時にある程度なにをするかを皆で話し合っている。この他についても、常日頃より、自分で選ぶということを利用者様に意識していただいている。また、利用者様の要望を最優先させる方針でサービス提供を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様本人の個性や好みを尊重した支援ができています。理・美容については希望があれば、原則的には御家族で対応して頂いているが、御家族の都合がつかない場合はこちらで付き添いも行うようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては、利用者様の状態や好みに応じたものを提供している。調理の際には旬の食材と一緒に調理し、メニューに季節感を出している。また、定期的に、利用者様からのリクエストのご馳走の日、個別の誕生会、記念日の祝いを実施している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなものを一緒に買い物に行ったり、買い物が難しい方へは、食べたいものがないかを確認して買い物に行くようにしている。好みのものは、ある程度用意しておき、希望に応じて提供させていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを活用し、利用者様一人一人の排泄パターンを把握することで、トイレ誘導やパット交換を無理なく実施することができている。また、自力でトイレを使用される方へは、さりげなく見守り・援助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者様一人ずつ状態に応じた入浴支援を行なっている。ゆっくりとしたペースで入浴して頂けるように、入浴中の見守りの場所や声かけに配慮している。毎日、昼夜と入浴可能である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様全員の睡眠状況を把握し、日中の活動にできるだけ参加して頂くことや、夜間はできるだけ物音を立てないように配慮し、安眠へとつなげている。寝つきが悪いと訴えられる利用者様に対しては夜間の足浴などを実施するようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割、楽しみごとは、それぞれの利用者様が個性や趣味に応じて、日常の中で自発的に行われたり、声かけて役割を担っていただくように支援している。気晴らし支援については、散歩やドライブなどが喜ばれるため、適宜対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者様に行なって頂くようにしているが、利用者様の管理能力に応じて預り金として管理し、月ごとに収支報告書に記載し、利用者様や御家族に収支報告を行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様の状態や好み、車酔いなどの理由で利用者様全員参加の外出の機会は減ってきているが、年に1～2回は全員で外出できるように努めている。通常時は個別的な希望や状況に応じて外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の協力のもと、墓参りや遠方への理美容、思い出の場所へのドライブなどに出かけられている。グループホームでは、温泉入浴や魚釣り、花見などに出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応するようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室環境を常に整え、訪問時には座椅子やお茶、菓子等を提供し、くつろぎの時間を過ごしていただけるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を法人内で発足させ、全体的に取り組みを行ない、議題提起や報告を行なっている。また、研修会参加や勉強会等により、正しい知識を職員全体へ周知させ、身体拘束のないケアを実践するよう指導している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊される方がおられても、玄関などは鍵をかけないようにしており、玄関センサーや職員の見守りにおいて、危険防止を図っている。また、職員が出入りするときは、声かけを必ず行うようにし、利用者様、来訪者と区別を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認、様子観察については、各職員が細心の注意を払い、協力して見守り・援助を行なっている。夜間についても、定期的に様子観察を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為などはないため、ミニチュアや花などを置いたりして、安らげる空間作りに努めることができている。注意が必要な物品についても、職員の目の届く範囲に置いて、利用者様から要望があれば提供するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策委員会等の活動を通して、各マニュアルの遵守、ヒアリハット事例検討など、対応策を常に検討している。グループホームでは会議等を通じて、職員への周知徹底を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており、医師・看護師からの指示にて応急手当等を行える体制を整えている。また、普通救命講習受講や更新を義務付け、適切な初期対応が図れるようにしている。</p>		
71	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>法人全体での防災訓練参加やグループホーム独自の防災訓練を通して、火災や地震時の非難誘導訓練を行なっている。また、管轄の消防署により、定期的な危険箇所チェック、防災対策へのアドバイスを頂いている。</p>	○	今後も管轄の消防署と連携し、適切で迅速な災害対応ができるよう、適宜防災訓練を実施していく。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>面会時等に、状況に応じて心配されるリスクを報告し、対応策についても、御家族と話し合いを行なっている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎日、午前と午後・その他状況に応じて随時健康チェック(熱・血圧・脈・顔色・呼吸状態・身体の動きなど)にて、異常の早期発見に努めている。体調変化があった場合には、早急に病院・家族へ連絡し、早期対応を図っている。</p>		
74	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>内服薬の管理等は看護職員に責任をもって管理させている。その他の職員も薬剤情報提供書などから、効果・副作用・用法・用量を把握している。内服薬の効能や副作用について、グループホーム内研修でも研修を行なった。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘解消のため、牛乳の提供や繊維食品などの提供を心がけている。排便間隔も排泄チェック表にて状況把握を行い、腹部マッサージを行なうなどのアプローチを行なっている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>食後の口腔清潔への呼びかけ、口腔清潔援助の実施により、利用者様全員が口腔清潔を保たれており、週1回以上の義歯消毒において義歯の清潔を保っている。また、義歯の状態や歯茎などの状態にも気を配り、異常があれば歯科受診を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメント時に、平均的な食事量や水分摂取量を記入し、日々の食事・水分提供に役立てている。また、その日の状態、要望に応じて調節を行ない、柔軟に対応している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策委員会、マニュアルの設置と施設内外で研修会を重ね、知識の向上を図ると共に、常々対応策を検討している。また、外部からの感染を予防するため、手洗いうがいの呼びかけと、体調不良時には面会を遠慮していただくように呼びかけを行なっている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	丁寧な食器洗い、高温乾燥、定期的なハイター消毒などにより、調理器具等の衛生管理に努めている。食材については、毎日の買い物により、新鮮な食材の確保に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	和風で木材を使用した木の家と、木目調の大きくて見やすい表札、周辺の花壇、プランター等により、家庭的な雰囲気を出せている。玄関の採光にも木を配り、暗いイメージにならないように気をつけている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい生活空間の提供のため、常に照明には気を配っている。また、共同で利用される空間については、季節に応じた装飾を行っており、こまめに清掃を行っている。また、ゆったりとした時間となるように、職員はせかせかした動きにならないように注意している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや昼間を設け、利用しやすいように家具の配置や温度調節、整理整頓を心がけ、利用者様は思い思いの場所で気ままに過ごされている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際に、使い慣れた家具の持込みを促し、利用者様によっては使い慣れた電化製品、家具、思い入れの深い小物などが持ち込まれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は利用者様の動きを見ながら、毎日行なっている。室温管理についても、利用者様の状態や要望・好みに応じて対応するようにしている。トイレの臭気対策については、小まめな清掃や換気を行ない、使用後にはお香などを使用し、排泄臭を緩和するようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建造物の設計段階から、高齢者向けとして考慮しており、バリアフリー構造、浴槽・便座等の高さ・サイズ調整、手すりを要所には必ず設置している。流し台については利用者様と会話しながら調理ができるようにと、テーブルと向き合うように設置した。施設内には表札などで場所を表すようにし、利用者様が行かれたい場所がわかるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	紛らわしいものを置かず、騒がしい空間とならないように気をつけている。常に清潔を保つため、整理・整頓、清掃に力を入れている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキを設置し、洗濯物干し、園芸に使用するだけでなく、季節に応じてバーベキューなどの食事会も実施している。テラスには照明を設置しており、夜間も使用可能である。また、グループホーム横に花壇を整備し、野菜や花などを栽培できるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員それぞれの意見を、管理者・運営者はよく耳を傾け、反映させている。職員はのびのびと働き、自分たちで考えながらより良いサービス提供に努めている。管理者・運営者は軌道修正や助言を行なっている。
- ・常日頃から、利用者様に対して自由な生活空間を提供できるように、環境面の整備を徹底している。また、利用者様からのサインを見逃さず、要望にすばやく対応するように努め、行動を制限する声かけを行わないようにしている。コミュニケーションにおいては、地方の方言を多用せず、丁寧な言葉かけを心がけ、明るく楽しいコミュニケーションをとるように努めている。また、利用者様の性格や好みに応じてアプローチを変え、「笑顔」を引き出す工夫を行なっている。
- ・家庭的な雰囲気になるように、様々な視点から環境整備や装飾、家具の使用及び配置などに気を配っている。
- ・職員研修に力を入れており、法人全体での職員研修や、月1回のGH内研修の実施、各種研修会参加にも積極的に参加している。情報の共有もよくできている。